

令和5年度 学校アクションプラン

龍谷富山高等学校

重点項目	1. 教科指導
重点課題	生徒の学習意欲を高めるとともに、自主的に学習活動を進めていこうとする意識を高める。
現 状	○自ら学習課題を見つけ、意欲的に学習活動に取り組もうとする生徒が少ない一方、与えられた学習課題には真面目に取り組む生徒が多い。 ○学習時間が充分であるとは言えない。 ○目標を持って、学習時間の確保や学力向上に取り組む生徒は少ない。
達成目標	○家庭での学習時間が全くない生徒を減らす。 ○計画的に学習を進めていこうとする意識を高める。 ○学年末の評価で不認定となる生徒を減らす。
方 策	○年数回学習調査を実施することで、生徒自ら学習を見つめなおす機会とする。また、教員は生徒の実態を把握し、学習意欲の向上と指導の参考とする。 ○定期考査毎に目標設定、学習時間設定の用紙を配付し、学習意欲を高める。

重点項目	2. 宗教教育
重点課題	(1)「学園の心」の具現化に努める。 ・「おかげさまで」という感謝の心を、言語化および行動化する (2)慈光堂や教室内で「合掌する姿＝優しい姿勢」を美しく保つことを、常に意識する。 ・beauty of form＝様式美 (3)報恩献金・募金活動の活性化
現 状	○慈光堂を、本校における「中心となる場所」「特別な場所」として、教員・生徒ともに認識していることが、礼拝の態度から感じることができる。 ○数年来のコロナ禍により、本校が宗門校として歴史・伝統ある学校であり、多くの人の思いを受け継いで今がある、という認識が希薄化している。
達成目標	○慈光堂では、教員・生徒ともに、人の話に耳を傾ける時間・心を落ち着かせる時間・心の身だしなみを整える時間であることを、共通認識とする。
方 策	○各種礼拝で、多くの教員に講話の機会を持ってもらい、宗門校の教員であるという意識を高めるとともに、生徒に「気付き」を与えられるような講話を提供する。 ○「報恩の日」に生徒(3年生)が話す機会を設けることで、生徒自身が同世代の思いや考えを知り、己の日常に刺激を与えるきっかけとする。 ○行事や礼拝前に、報恩献金の意義について話す。

重点項目	3. 進路指導
重点課題	○進路について高い目標を設定し、その目標に向かって積極的に行動する生徒を育成する。 ○進学の実績を向上させるための取り組みを推進する。
現 状	○進路に対する意識はあるものの、向上心があまり見られなかったり現状で満足して進路先を選択したりしてしまう生徒が多く見受けられる。 ○進学先や就職先について積極的に情報を集めようとする姿勢は見られるものの、幅広い視野で情報を集め、それを自分の将来や適性に合った進路に結び付けて目標設定する生徒が少ない。 ○進路目標達成のために授業進度の改善や学習量の確保が必要である。
達成目標	○進路実現に向けて意欲的に調べたり行動したりする生徒90%以上 ○生徒の進路希望に合った適切かつ有効な情報を提供し、進路実現に向けて役立つことができるよう支援する。 ○進学を希望する生徒の学力向上に向けた支援を強化し、進路目標の達成を図る。
方 策	○「進路の手引き」や進路情報誌を活用し各学年の生徒の実態に応じた進路指導を実践する。 ○進路意識が高まるようなガイダンスや研修ならびに学力向上を目的とした講習・補習を充実させる。 ○生徒の家庭環境や学習環境を把握し、また学力分析を行うことで適切な進路指導を行う。

重点項目	4. 生徒指導
重点課題	龍谷富山高等学校の一員としての誇りを持ち、規律正しい学校生活を送る。
現 状	○大きな問題行動は減少しているが、生徒間トラブルや特に校外で制服の着こなしに乱れが見られる。 ○規範意識が薄く、校則を安易に破ってしまう行為が見られる。
達成目標	○正装の徹底 ○いじめ0 ○命を守る
方 策	○正装指導の徹底と巡視。 ○学園生活調査や面談等を通して生徒の現状把握に努め、心の教育を推進する。 ○交通安全教室や集会を通して命の大切さを伝える。

重点項目	5. 特別活動
重点課題	学校行事や生徒会活動、部活動、SDGs 活動等を通し、自主性・責任感・協調性などを育成する。
現 状	○部活動や学校行事などに意欲的に取り組み、充実した学校生活を送っている生徒がいる一方で、日々の学校生活を無為に過ごしている生徒も一定数いる。 ○体育大会などの学校行事には積極的に取り組む生徒が多いが、生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組む生徒は少ない。 ○令和3年度に「RYUTOMI◆SDGs◆ゴール∞」を発表しているが、生徒たちに浸透していない。
達成目標	○部活動加入率65%（昨年度60%）。 ○月に1回の委員会の日を作り、各種の委員会活動を活性化する。 ○SDGs を意識した生活を送っている生徒60%（年度末にアンケート実施）。
方 策	○「部紹介」時に、各部の紹介プリントを配布し、体験入部の日程等が伝わりやすいようにする。また、担任から部活動の意義を伝える。 ○常任委員会（美化・校紀・福祉）だけでなく、全ての委員会において定例会を実施する。担当教員と生徒会執行部の生徒が中心となり、委員会のテーマを決め、実りある委員会活動となるようにする。 ○1年生の探究活動や、2，3年生の代議員会などでSDGs について考える機会を作り、意識した生活を送ることができるようにする。

重点項目	6. 環境と健康指導
重点課題	○整理整頓された環境で学習や各種活動に取り組むことによって、環境美化についての意識向上を図り環境管理（美化）から危機管理（災害）へとつなげていく。 ○「自分の健康（命）は自分で守る」という意識を持ち、疾病予防や健康の保持増進に努める態度を身につけさせる
現 状	○ごみを自ら拾い、ごみ箱に捨てるという習慣が少なく、美化に対する意識が低下している。そのため、清掃活動が形骸化している。 ○健康診断後の受診率が低く、自らの健康への意識が希薄である。
達成目標	○「きれいな学校・気持ちの良い学校」を目指し、丁寧な清掃活動や進んでごみを拾う姿が日常化する学校を目指す。 ○健康診断後の受診率の向上を図る。 各学年及び全校・・・30%以上
方 策	○各担当場所に手順表を掲示し、教員も一緒に清掃活動を行い、環境美化に対する意識を高める。 ○校内外の環境美化については、特活部（美化委員、保健委員）等と協力して行い、意識化を図る。 ○健康診断後は、受診カードを生徒に配布し受診勧奨するとともに、学期末の保護者懇談会の機会を捉えて保護者に対しても受診行動への喚起を行う。学期ごとに受診状況を集計し周知する。 ○「ほけんだより」を発行し、保健に関する情報提供と知識の向上を図る。 ○外部講師による保健講座を行い、健康の保持増進につなげる。 ○感染症を含めた疾病予防のための基本行動（清潔保持、咳エチケット、早期受診、休養など）を自ら実践できる態度と意識の喚起に努める。